【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成17年9月2日(2005.9.2)

【公開番号】特開2004-8257(P2004-8257A)
【公開日】平成16年1月15日(2004.1.15)
【年通号数】公開・登録公報2004-002
【出願番号】特願2002-161895(P2002-161895)
【国際特許分類第７版】
　Ａ６１Ｈ　7/00
【ＦＩ】
　Ａ６１Ｈ　7/00　３２２Ｅ
　Ａ６１Ｈ　7/00　３２２Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成17年3月8日(2005.3.8)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
　マッサージ機能を有する複数の脚保持部材を、脚の長さ方向に並べて成る脚載せ部と、
　前記複数の脚保持部材を、脚の長さ方向にそれぞれ移動可能に支持する支持装置と、
　前記複数の脚保持部材を、脚の長さ方向に所定の関係で相互に連動させる連動装置と
　を備えたことを特徴とする脚マッサージ装置。
【請求項２】
　前記連動装置は、前記支持装置上の原点から脚の長さ方向における前記複数の脚保持部材までの各距離を比例的に伸縮させるリンク機構を有する請求項１記載の脚マッサージ装置。
【請求項３】
　最先端の脚保持部材には足裏の押し当て面が設けられている請求項１記載の脚マッサージ装置。
【請求項４】
　前記脚保持部材は３個設けられ、脚の施療要所に対応して配置されている請求項２記載の脚マッサージ装置。
【請求項５】
　前記リンク機構は、４点接続の四角形リンクを複数段に構成して各段ごとに対応する脚保持部材に接続され、各四角形リンクを脚の長さ方向に屈伸させることにより伸縮するものであって、その伸縮率が各段で異なる請求項２記載の脚マッサージ装置。
【請求項６】
　前記脚載せ部の最先端の脚保持部材には足裏の押し当て面が設けられており、
　前記押し当て面に付与される脚の力に抗する力を前記最先端の脚保持部材に付与するばねを備えた請求項１記載の脚マッサージ装置。
【請求項７】
　前記支持装置の脚先側下端に車輪が取り付けられている請求項１記載の脚マッサージ装置。
【請求項８】
　前記連動装置は、最先端の脚保持部材を足で押す動作に応じて前記複数の脚保持部材を

相互に連動させる請求項１記載の脚マッサージ装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
上記脚マッサージ装置（請求項１）において、連動装置は、支持装置上の原点から脚の長さ方向における複数の脚保持部材までの各距離を比例的に伸縮させるリンク機構を有するものであってもよい（請求項２）。
この場合、原点から見た脚の施療部位までの距離が、脚の長さに応じて比例的に変化するという経験的事実に基づき、脚の長さに関わらず共通の施療部位に脚保持部材が移動する。
また、上記脚マッサージ装置（請求項１）において、最先端の脚保持部材には足裏の押し当て面が設けられていてもよい（請求項３）。
この場合、押し当て面に足裏を押し当てることにより、当該脚保持部材を移動させれば、他の脚保持部材が連動して移動する。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
また、上記脚マッサージ装置（請求項２）において、脚保持部材は３個設けられ、脚の施療要所に対応して配置されていることが好ましい（請求項４）。
この場合、３個の脚保持部材によって脚の施療要所をマッサージすることができる。
また、上記脚マッサージ装置（請求項２）において、リンク機構は、４点接続の四角形リンクを複数段に構成して各段ごとに対応する脚保持部材に接続され、各四角形リンクを脚の長さ方向に屈伸させることにより伸縮するものであって、その伸縮率が各段で異なるものであってもよい（請求項５）。
この場合、四角形リンクの屈伸により各脚保持部材が移動するが、伸縮率が各段で異なることにより、脚保持部材の移動量を微調節することができる。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】
また、上記脚マッサージ装置（請求項１）において、脚載せ部の最先端の脚保持部材には足裏の押し当て面が設けられており、押し当て面に付与される脚の力に抗する力を最先端の脚保持部材に付与するばねを備えてもよい（請求項６）。
この場合、押し当て面に足裏を押し当てることにより、ばねの付与する力に抗して最先端の脚保持部材を移動させれば、当該脚保持部材は脚の長さに対応した位置に達する。また、脚載せ部から脚を降ろすことにより自動的に、脚保持部材が元の位置に復帰する。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】

また、上記脚マッサージ装置（請求項１）において、支持装置の脚先側下端に車輪が取り付けられていてもよい（請求項７）。
この場合、脚保持部材を移動させるとき車輪が床についても、車輪の転動によって脚保持部材が円滑に移動する。
また、上記脚マッサージ装置（請求項１）において、連動装置は、最先端の脚保持部材を足で押す動作に応じて複数の脚保持部材を相互に連動させるようにしてもよい（請求項８）。
この場合、最先端の脚保持部材を足で押して複数の脚保持部材を相互に連動させることにより、各脚保持部材は脚の長さに対応した位置に達する。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３０】
請求項２の脚マッサージ装置によれば、原点から見た脚の施療部位までの距離が、脚の長さに応じて比例的に変化するという経験的事実に基づき、脚の長さに関わらず共通の施療部位に脚保持部材を移動させて、マッサージを行うことができる。
請求項３の脚マッサージ装置によれば、押し当て面に足裏を押し当てることにより当該脚保持部材を移動させれば、他の脚保持部材が連動して移動するので、極めて容易に、脚の長さに合わせて脚保持部材の移動を行うことができる。
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３１】
請求項４の脚マッサージ装置によれば、３個の脚保持部材によって脚の施療要所を的確にマッサージすることができる。
請求項５の脚マッサージ装置によれば、伸縮率が各段で異なることにより、脚保持部材の移動量を微調節することができるので、施療要所へ的確に脚保持部材を移動させて、マッサージを行うことができる。
【手続補正８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３２】
請求項６の脚マッサージ装置によれば、押し当て面に足裏を押し当てることにより、ばねの付与する力に抗して最先端の脚保持部材を移動させれば、当該脚保持部材は脚の長さに対応した位置に達する。従って、脚の長さに合わせた装置側の長さ調節が簡単である。また、脚載せ部から脚を降ろすことにより自動的に脚保持部材が元の位置に復帰するので、元に戻す操作が一切不要であり便利である。
【手続補正９】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３３】
請求項７の脚マッサージ装置によれば、脚保持部材を移動させるとき車輪が床について

も、車輪の転動によって円滑な動作が行われ、脚保持部材の移動が妨げられることはない。

請求項８の脚マッサージ装置によれば、最先端の脚保持部材を足で押して複数の脚保持部材を相互に連動させることにより、各脚保持部材は脚の長さに対応した位置に達する。従って、施療要所へ的確に脚保持部材を移動させて、マッサージを行うことができる。